

# ゆばら

平成31年3月15日  
湯原中学校便り NO.11  
校長 下山 洋

## 「川の水を正しく流す」～21世紀に生きる君たちへ～

卒業する三年生に、今年も真庭市から『21世紀に生きる君たちへ』（司馬遼太郎著 1999年）という本をいただきました。その中に次のような一節が書いてあります。

君たちは、いつの時代でもそうであったように、自己を確立せねばならない。自分に厳しく相手にやさしく、という自己を。そしてすなおでかしこい自己を。

21世紀にあっては、科学と技術がもっとも発達するだろう。科学・技術が、洪水のように人間を飲み込んでしまってはならない。川の水を正しく流すように、君たちのしっかりした自己が、科学と技術を支配し、よい方向にもって行ってほしい。

20年前に司馬遼太郎がこの本で述べているように、科学・技術が日々進化している21世紀の現在、人々は小型で高性能な情報端末機器（スマホやPC、タブレット等）を手にして使用しています。これらの製品は確かに便利なものですから時流といっても過言ではないと思います。しかし、その流れに流されないようにすることも大切なことです。そのためにしっかりと自己を持つこと、これらの機器が与える様々な影響（時間・健康・精神等）のことを考える賢さを持つことが重要となってきます。これから新しい世界への一歩を踏み出す卒業生の皆さん、もう一度読んでみてください。



【贈られた本を手にする生徒】

## 「湯原学講座」最後の授業～自分にとって「ふるさと」とはどういう存在なのか～

2月20日（水）の4時間目に、3年生は1年間学習してきた「湯原学講座」のまとめの授業をしました。この時間のテーマを「これからの湯原の街づくりと、自分にとって「故郷」とはどういう存在かを考える」としてワークショップ形式で授業をしました。

- 湯原のいいところはどんなところでしょう。
- 人口減少・観光客減少の理由はなんでしょう。
- 湯原をどんな街にしたいですか、またどんな街であって欲しいですか。以上3点についてグループでお互いに意見交換を行い、湯原のキャッチフレーズを考えました。

◎発表されたキャッチフレーズ

Aグループ：どこ行く？『湯原！』 ～みんなが行きたいと思う街～

Bグループ：便利で暮らしやすい街～笑顔あふれる誰にもやさしい街～

■キャッチフレーズを実現するために、今の私にできること、今はできなくても将来できそうなこととは。について再度、意見を交換しグループのまとめとして発表しました。



その後、「ふるさと」とは、自分にとって「原点」・「思い出の詰まった宝箱」・「安心できる場所」的な存在なのではというまとめをして、1年間の授業の振り返りに感想を書くことで締めくくりました。将来、湯原の地を離れることがあっても、「湯原」はあなたたちの故郷です。いつまでも故郷を思う心を大切にしていって欲しいと思います。

## 避難訓練を行いました。～自分の命は自分で守る～

8年前の3月11日に「東日本大震災」が東北地方を襲いました。この地震の大きさはマグニチュード9、宮城県内の最大震度は7、地震の影響で発生した津波は海岸線から内陸に向けて約6キロ侵入し、波の高さは最大で10メートルとの記録が残っています。またこの震災で亡くなった方は約1万6千人、現在も行方不明の方が2,500人もおられます。岡山県は地震の少ない県として有名ですが、万が一のための備えは必要です。避難訓練に参加した生徒たちは真剣に訓練に参加していました。このような訓練の積み重ねが大切だと改めて感じました。



## 「平成30年度卒業証書授与式挙行」～新たなステージでの活躍を！～

3月12日（火）、春風の香る中、第15回卒業証書授与式を挙行了しました。

送辞では高橋 輝君が、部活動や生徒会活動、運動会、文化祭を通して教えてもらったことや日ごろの学習や生活の姿から学んだことなど、卒業生に対する感謝の気持ち、それらを受け継いでいく決意を伝えました。それを受けて答辞では木原亮陽君が湯原中学校での3年間の行事や日々の学習、生活の中で学んだこと、そしてこれまで支えてくれた多くの方々への感謝の思いを伝えまし。そして在校生には、「二年生は、最高学年として後輩の手本と成るように、先輩をサポートして湯原中学校を盛り上げて欲しい。」とエールを送り、「困難な事があっても、この湯原中学校での楽しかった思い出や先生方に教わった事を思い出して乗り越えて行きます。」と結びました。最後に卒業生が「ふるさと」、在校生が「Forever」を歌い、式を閉じました。

1・2年生は卒業式に向けて、校内の掃除や会場準備などをしっかり行い、式中の姿勢、態度もたいへん立派でした。（来賓の方々からも「生徒さんの思いのこもったいい卒業式でしたね。」とお褒めの言葉をいただきました。）それぞれの思いが気持ちよく重なり合う式になりました。

また、式前日の「三年生を送る会」では、生徒会の各専門委員会が趣向を凝らした出し物を準備していて、楽しい一時を過ごすことができました。



【中学校最後の学活】



【3年生を送る会  
在校生より色紙贈呈】

その船を漕いで行け お前の手で漕いで行け  
お前が消えて喜ぶ者に お前のオールをまかせるな  
卒業おめでとう！勇気を持って大海に漕ぎ出でよ！！

学校長 下山 洋